

白塔歌仙会第四五二回四月例会「花ニラ」の巻

花ニラの群れ咲く処風の立つ

和子

丘を囲んで土筆の円陣

恆雄

入学式前に教室掃除して

悦子

五十音表も地図も新調

七緒

うたいまじよぼーんのような月ですよ

箆羅

針の煌き屋上流れ星

果穂

ウ 雲間には邯鄲の声透き通り

恆

そろそろ夫(つま)の帰宅の時刻

和

どうにでもあととはするからはよ逃げて

七

シエルターの名は無憂安穩

悦

古本に意味深長な手書きメモ

果

思いがけない儲けとなった

箆

月面へショートパンツでペット同伴

悦

豊穰の海の渚で泳ごう

恆

快眠と快食あれば機嫌好し

和

ニューヨークには黄金のトイレ

果

関白が茶杓で掬う花の屑

七

子等への土産キサゴを拾う

箆

ナオ 陽炎の退る尾追いつ登り坂

恆

あの八幡も本庁離脱

悦

磯伝い七里の道を行くもよし

箆

江ノ電走る曾っては戦さ場

和

チリチリとコチ来るチワワマント着て

果

露西亜掠めたクリミアの冬

七

巖の上でんと構えて見下ろして

箆

潮騒迫るレスボスの島

恆

掌を握るフォークダンスにときめいて

和

男子校にはレコードもなし

七

月は留守ゴッホの夜のカフェテラス

果

糸杉の枝鴟の早贄

悦

ナウ 奥津城や落葉の果てに浮かびけり

恆

小舟で待つはフェリーニの永遠

果

巨船往く全天窓と電飾と

七

洩れくる曲はムーンライト・セレナーデ

和

警報のやんでキーウの花の宴

悦

目には高楼耳には雲雀

箆

連衆・和子、恆雄、悦子、七緒、箆羅、果穂。

令和 六年四月一日 首、令和六年四月十六日 尾(文音)